

Ⅳ おわりに

96年調査では半数以上の病院が「看護職員の定着がよくなった」と回答するなど、絶対的な「看護婦採用難」の時代を脱し、良好な職員定着を背景に、単なる「確保」を超えてさらなる看護サービスの質向上をめざしての看護要員の採用・配置に取り組むべき状況を迎えたことが明らかになった。また、97年調査では、全体的な確保・定着状況が引き続き堅調に推移していることが確かめられた。

今回調査では看護婦・士については依然採用意欲が高いことが明らかになった。しかしながら「今年度以上採用」が25.4%と97年調査より7.2ポイント減少、「欠員状況による」が38.2%と同じく5.0ポイント増加しており、近年の看護婦・士需要数の拡大傾向は今後ペースダウンが見込まれる。一部ではすでに採用の手控え傾向も生じており、今後の医療供給体制再編の動向によっては、近い将来に需要の伸びの縮小もありうる状況といえよう。准看護婦・士についてはその雇用状況はますます厳しく、就業先がより限られていくと推測される。